

## 第三者評価結果入力シート（乳児院）

|    |     |
|----|-----|
| 種別 | 乳児院 |
|----|-----|

### ①第三者評価機関名

|                  |
|------------------|
| 公益社団法人神奈川県介護福祉士会 |
|------------------|

### ②評価調査者研修修了番号

|          |
|----------|
| SK18087  |
| S2019026 |
| 神機構-82   |
|          |
|          |

### ③施設名等

|                  |                              |
|------------------|------------------------------|
| 名称：              | しらかばベビーホーム                   |
| 施設長氏名：           | 芝 太郎                         |
| 定 員：             | 19名                          |
| 所在地(都道府県)：       | 神奈川県                         |
| 所在地(市町村以下)：      |                              |
| T E L：           |                              |
| U R L：           |                              |
| <b>【施設の概要】</b>   |                              |
| 開設年月日            | 2011/4/1                     |
| 経営法人・設置主体（法人名等）： | 社会福祉法人誠心会                    |
| 職員数 常勤職員：        | 30名                          |
| 職員数 非常勤職員：       | 10名                          |
| 有資格職員の名称（ア）      | 保育士                          |
| 上記有資格職員の人数：      | 20名                          |
| 有資格職員の名称（イ）      | 家庭支援専門相談員                    |
| 上記有資格職員の人数：      | 1名                           |
| 有資格職員の名称（ウ）      | 児童指導員                        |
| 上記有資格職員の人数：      | 1名                           |
| 有資格職員の名称（エ）      | 看護師                          |
| 上記有資格職員の人数：      | 3名                           |
| 有資格職員の名称（オ）      | 心理士                          |
| 上記有資格職員の人数：      | 1名                           |
| 有資格職員の名称（カ）      | 栄養士                          |
| 上記有資格職員の人数：      | 1名                           |
| 施設設備の概要（ア）居室数：   | 4                            |
| 施設設備の概要（イ）設備等：   | 寝室、沐浴室、心理療法室、医務室、診察室、静養室、病室、 |
| 施設設備の概要（ウ）：      | 親子支援室                        |
| 施設設備の概要（エ）：      |                              |

### ④理念・基本方針

|  |
|--|
| <p>◆基本理念<br/>「みんないっしょの養護・養育」<br/>要保護乳児および幼児の最善の利益確保に向けて、法人が一体となって全ての専門職種の職員の力を結集して、効果的・効率的な施設運営を心がけます。</p> <p>◆基本方針<br/>・要保護乳児および幼児の人権に配慮した援助と個別支援計画により、それぞれの目標に向けた支援を懇切丁寧に行います。<br/>・そのために必要な職員の専門性および資質の向上に努めます。</p> |
|--|

### ⑤施設の特徴的な取組

|  |
|--|
| <p>○子どもとの愛着関係を築くため、入所から退所まで一貫した「担当養育制」を取り入れているが、子どもたちの養育・支援は全職員で取り組むこととして、職員会議やクラス会議、各委員会等を定期的に行い、職員間で情報を共有している。</p> <p>○職員間のコミュニケーションを図るため、職員会議の冒頭に、グループワークを行っている。グループワークは皆で話し合うこと、コミュニケーションの量を増やすことを目的に、身近な事柄をテーマにして、毎月行っている。</p> <p>○保護者が面会しやすい環境を整えている。面会時間を9時30分から17時までとし、児童相談所の制限がない限りは、いつでも来園できるようにしていることから来園者も多い。面会に訪れた保護者は、他の子どもとも一緒に過ごしてもらい、状況を確認して個室で対応し、散歩や外出、外泊につなげている。</p> <p>○家庭支援専門相談員や里親支援専門相談員を配置し、親子関係の再構築に向けた支援や、里親への委託に積極的に取り組んでいる。また退所後、子どもが安定した生活を送ることができるよう、職員が引き続き関わり、アフターケアに取り組んでいる。</p> |
|--|

### ⑥第三者評価の受審状況

|                   |          |
|-------------------|----------|
| 評価実施期間（ア）契約日（開始日） | 2019/6/1 |
|-------------------|----------|

|                   |          |  |
|-------------------|----------|--|
| 評価実施期間（イ）評価結果確定日  | 2020/2/3 |  |
| 前回の受審時期（評価結果確定年度） | 平成28年度   |  |

⑦総評

○「みんないっしょの養護・養育」の基本理念の下、担当養育制にて小規模グループケアを実施している。また、対人関係の基礎を育む乳幼児期にある子どもたちに、できるだけ変わらない大人との人間関係と生活環境を提供するため、縦割りの養育体制を継続し、2歳を超えた子どもの発達支援を行っている。

○対象が乳幼児であるため、特に不適切な関わりが起きないよう、職員会議やクラス会議で職員の言葉掛けが適切か振り返り、乳児院は子どもを守る施設であることの意識を高めている。子どもの名前呼び捨ては禁止している。

○子どもの満足度の把握は、子どもたちが幼く、自分の気持ちを言葉に表すことができないため、日々の養育・支援の場面で職員が把握するように努めている。職員間で情報を共有しながら、試行錯誤して、養育・支援を実践している。保護者からの相談や電話での問い合わせに対応するため、児童相談所とのやりとりや保護者支援を担当する専門職員の1人は、必ず勤務する体制を整えている。

○子どもの生活リズムに合わせて、一日を過ごせるようにしている。寝たい時にお昼寝をする子ども、散歩に行く子ども、おもちゃで遊ぶ子ども、子ども園に通っている子ども等、子どもの気持ちに寄り添い、月齢にあった生活を体験している。

○子どもたちの五感を育むため、積木や大小ブロック、人形、ぬいぐるみ、絵本等のおもちゃを用意し、室外では砂場や滑り台、コンビカー等で身体を使った遊びができるようにしている。誕生日やクリスマスのプレゼントとして、担当職員が発達や月齢にあった玩具を購入し、個別の玩具箱に入れ、いつでも遊ぶことができるようにしている。天気の良い日は、積極的に戸外に出て、公園等で思い切り身体を動かすようにしている。

○個々の状況に応じて、栄養士が「食箋表」を作っている。子どもの食事の形態、形態を上げた時の状況、食べ方、咀嚼の仕方等を、担当職員と栄養士、主任等で話し合い、子どもの状況に合わせて食事を提供している。離乳食のプログラムに頼るだけでなく、個々の子どもの状況に合わせて、少量で時間をかけて様子を見る等、味や食べることに無理なく慣れるようにしている。

○毎月、市内の小児科の嘱託医が往診し、子どもたち一人ひとりの健康状態を管理している。毎日担当者が、子どもの体温、食事や水分摂取量、排便の状況、機嫌等を生活記録用紙に記録している。看護師も看護日誌に子どもの健康状態を記録している。こどもに異常が見られる時には、看護師に相談して受診につなげている。

○地域住民や地域の支援者に感謝の意味を込めて、同一建物内の児童養護施設と合同で、毎年秋に「あしたば祭」を開催している。「あしたば祭」には、地域の方が多く参加する他、退所した子どもたちに元担当者がメッセージを書いて送り、参加を呼び掛けている。今年度も7～8人の参加があった。また、地域に向けた「ベビーマッサージ」はとても好評だったので、来年度は2か月に1回は地域に向けた研修等を開催していきたいと考えている。

○緊急一時保護を受け入れている。子どもの不安を取り除くため、対応した職員が子どもが落ち着くまで継続して関わっている。食事、入浴等も同じ職員が関わり、安心感を持ってもらえるようにしている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

客観的な視点で見てもらえる第三者の方に、私たちの施設の活動を伝えることで、施設の取り組みを振り返る良い機会となったと感じます。日常的に行っている業務を「評価する」という視点で、改めてとらえ直すことで、いつもとは違った角度から考えられる材料となったと思います。

毎年行っている自己評価に加え、今回の第三者評価の結果も真摯に受け止め、より一層「子どもたちの最善の利益」に向けた実践に取り組んでまいりたいと思います。

ありがとうございました。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

自己評価結果表【タイプA】（乳児院）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

| (1) 理念、基本方針が確立・周知されている。 |   | 第三者評価結果 |
|-------------------------|---|---------|
| ①                       | 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。   | b       |
|                         | <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。              | ○       |
|                         | <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 | ○       |
|                         | <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されるとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。         | ○       |
|                         | <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。               | ○       |
|                         | <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、保護者等への周知が図られている。         |         |
|                         | <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。                               | ○       |

【判断した理由・特記事項等】

理念や基本方針は、パンフレットやホームページ等で周知している。新任職員へは、4月の法人全体及び施設の新人研修にて周知している。また、月1回開催する職員会議の場で、施設長から職員に説明している。保護者には、理念や基本方針、事業計画については、積極的には説明していない。まずは職員が内容を正しく理解し、必要時に保護者に伝えられることが大切と考えている。

## 2 経営状況の把握

| (1) 経営環境の変化等に適切に対応している。  |   | 第三者<br>評価結果 |
|--|---|-------------|
| ①  | 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。   | b           |
|  | <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。   | ○           |
|  | <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。   |             |
|  | <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 | ○           |
|  | <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。  | ○           |
| 【判断した理由・特記事項等】   |   |             |
| 社会福祉事業全体の動向については、全国乳児院協議会から送られてくる国の資料や、県の施設長会での情報等で把握している。インターネットからも情報を収集し、新しい動きに乗り遅れないようにしている。子どもの入所人数の推移については、常にチェックし、暫定定員にならないよう、一時保護を積極的に受け入れる体制を整えている。最近の動向として、都市部の利用ニーズが高いと感じている。また、県内10施設の乳児院の統計結果をまとめ、入退所や現状の課題等の把握に努めている。統計結果は、8月の行政との会議でも報告している。 |   |             |
| ②  | 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。   | b           |
|  | <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。                      | ○           |
|  | <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。   | ○           |
|  | <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。  | ○           |
|  | <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。  | ○           |
| 【判断した理由・特記事項等】   |   |             |
| 乳児院は、児童相談所からの行政措置決定による入所のため、計画的に入所をコントロールすることが難しい。入所人数は収入に直接結びつくため、不測の事態に備え、人件費を積み立てている。現在、職員の育成のため、人件費比率を高くして、職員配置数を多くしているが、職員が育った段階で、今後の取り組みを考えていく予定である。また、法令に基づき、子どもや家族の状況に応じて、小学校就学前までの養育も行っている。今後は、保護者支援や産前産後の支援、通所機能等の多機能化、相談機能の強化等への取り組みが必要と捉えている。  |   |             |

## 3 事業計画の策定

| (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。 |  | 第三者<br>評価結果 |
|-----------------------------|--|-------------|
| ①                           | 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。  | b           |
|                             | <input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。            | ○           |
|                             | <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。               | ○           |
|                             | <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。 |             |
|                             | <input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。                               |             |
| 【判断した理由・特記事項等】              |  |             |

中長期事業計画を策定し、職員会議等で職員に周知している。中長期事業計画の見直しは行っていないが、制度の動き等も激しいため、市の推進計画の策定に合わせ、見直しが必要と感じている。国の動きや乳児院の位置付け、定員の動き、入所人数の動きが不透明ではあるが、状況の変化に合わせ、考えられる可能性を職員会議等で周知している。また、乳児院への入所を減らす動きもあるが、都市部での必要性や、障害を持っている子ども、医療リスクの高い子ども等も多いことから、乳児院の必要性は高いと捉えている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ② | 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。                                 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。                                | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。    | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

事業計画は、中期計画を反映した内容としている。また、基本方針を具体的な支援内容に反映している。今年度の事業計画には、人材育成に関する計画、地域に向けた取り組みの計画を、具体的にあげている。また、市の推進計画の中に新しい事業が位置付けられた時は、それに取り組んでいく予定である。事業計画は、理事会・評議員会の承認を得て、職員会議で内容を職員に説明している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。                                 | b |
|   | <input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。                  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。                | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。                         | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。  | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

年度末に各委員会からの反省点等の報告を受けて、施設長が事業計画を策定している。計画の策定は職員の意見を参考にして施設長が行っているが、今後は現場の職員が担うことも考えている。夜勤や遅番の4人以外の全員が出席する3月末の職員会議の場で、事業計画書や役割分担表等の資料により、施設長が内容を説明している。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ② | 7 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。                         | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。                                     | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。                     | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

面会等で保護者が施設を訪れた際、内容を確認できるように、事業計画書を掲示しているが、実際には確認している場面は少ない。乳児院という特性からか、積極的に説明しても、受け入れられない現実もある。ホームページを充実させればとは考えている。子どもたちへの面会は多く、年間700~800件ある。面会時には、他の子どもとも一緒に過ごしてもらい、状況を確認して個室で対応し、散歩や外出、外泊につなげている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者  
評価結果

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。            |   |
|   | <input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。            | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。                   |   |

【判断した理由・特記事項等】

自己評価を毎年行い、また第三者評価も3年に1回受審している。自己評価結果は、内容を分析し、次年度の取り組みにつなげている。また、職員会議やクラス会議、各委員会を月1回開催し、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを行っている。会議等は一日の中で集中して開催し、課題を共有している。

|  |   |   |
|--|---|---|
| ②  | 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。                             | b |
|  | <input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。                  | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。                               | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。 |   |
|  | <input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。                        | ○ |
| <input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。 |   |   |

【判断した理由・特記事項等】

職員それぞれの自己評価で0評価の多かった項目について、内容を分析し、次の計画につなげている。今年度の自己評価結果から、①事業計画は、保護者等に周知され理解を促している、②必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取り組みが実施されている、③地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業・活動が行われている等の項目に課題があることがわかった。これらの課題に対して検討し、改善に向けた取り組みを行い、職員会議等で周知している。職員への周知に関しては、「連絡ノート」も活用している。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

|                      |   |   |
|----------------------|---|---|
| (1) 施設長の責任が明確にされている。 | 第三者<br>評価結果   |   |
| ①                    | 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。   | a |
|                      | <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。                         | ○ |
|                      | <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。                      | ○ |
|                      | <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。 |   |
|                      | <input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

施設長が職員会議には必ず出席し、また、毎朝の引継ぎにも可能な限り出席して、問題意識や課題等を職員と共有できるよう努めている。クラス会議にも、必要がある時には、出席している。会議に出席できない夜勤や遅番の職員には、会議資料を配布したり、情報共有ノートで周知したり、必要に応じて個別に説明している。施設長不在時には、主任の判断を仰ぐこととしているが、権限を決めるものは文書化が必要と感じている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ② | 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。   | b |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。 |   |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。                         | ○ |

|   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。 | ○ |
| <input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

全国乳児院協議会や関東ブロック、県や市の研修会に、施設長が積極的に参加し、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。また、職員会議を中心に、被措置児童等の虐待や、児童福祉法の内容を職員に説明し、周知に努めている。また、日頃の子どもたちとの関わりの中で必要となる、他の福祉に関する法令や民法等についても、情報を収集している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ① | 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。               | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。   | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。 |   |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。        |   |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。                | ○ |
|   | (5種別共通)<br><input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。     | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

子どもの健康状態に関する判断や、当日の動き等、可能な限り現場の判断に任せるようにしているが、必要な場合には、朝の引継ぎ等で施設長から指示を出している。施設長の指示を積極的に出すのではなく、主任や職員が主体的に考える体制が望ましいと考えている。研修計画は研修委員会で組み立て、職場内研修や救急救命法の研修を開催している。外部研修は、研修管理表に基づき、施設長と主任で参加者を決めている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ② | 13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。   | b |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。            | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。        | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

妊娠や年度途中の退職等があっても、子どもの生活の質を落とさずにすむよう、規程より多く職員を配置している。子育てしている職員、妊娠している職員、家族の介護をしている職員の勤務も、夜勤数を考慮する等して、可能な限り負担を少なく働けるようにしている。厚い職員配置は、職員の負担を軽くし、永く勤められるよう、将来を見据えて行っている。職員皆が助け合う体制を目指している。

2 福祉人材の確保・育成

|                                   |  |   |
|-----------------------------------|--|---|
| (1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。 | 第三者<br>評価結果  |   |
| ①                                 | 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。                                  | b |
|                                   | <input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。   | ○ |
|                                   | <input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。 | ○ |
|                                   | <input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。                         |   |
|                                   | <input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。                 | ○ |

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | <p>(5種別共通)<br/> <input type="checkbox"/>各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>   | ○ |
| 【判断した理由・特記事項等】   |   |   |
| <p>今年度より、施設長と職員の面接の時期を早め、8月から行っている。施設長面接では、職務自己評価票にて1年を振り返り、次年度の意向等を確認している。施設長面接は、常勤の職員と常勤的非常勤の職員、全員を対象に行っている。退職等の意向も把握し、早期に募集をかけられるようにしている。また、入職予定の学生を非常勤雇用し、事前研修を行う他、各種加算職員配置の要望書を市に提出して、福祉人材の確保・育成を進めている。</p>   |   |   |
|  | <p>② 15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。</p> <p><input type="checkbox"/>人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/>一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>  | b |
| 【判断した理由・特記事項等】   |   |   |
| <p>施設が期待する職員像は、職務自己評価票に、判断力や調整力等の16項目について、「期待し求められる水準」として示している。職務自己評価票には、次の目標の記入欄がないので、次年度からは改善する予定である。人事考課については、具体的な基準を定めていないため、現在は取り入れていないが、今後は必要と感じている。外部研修への職員派遣は、職員の職種や能力、経験、担当区分等を考慮して決めている。</p>   |   |   |
| (2) 職員の就業状況に配慮がなされている。   |   |   |
|  | <p>① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/>定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。</p> <p><input type="checkbox"/>福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。</p> | b |
| 【判断した理由・特記事項等】   |   |   |
| <p>年1回、施設長と職員の面接を定期的に行っている。また、職員の申し出により随時、施設長と主任が面接を行っている。勤務表はこれまで主任が作成していたが、12月は試行的に施設長が作成した。働きやすい職場作りとして、先の見通しを立てられるよう夜勤日を3か月先まで決めて作成したが、職員にアンケートを取って、勤務表について意見交換を行う予定である。有給休暇の取得についても、希望日が集中しないよう、年間の希望表を作っている。子育て中の職員、妊娠中の職員、家族を介護中の職員に配慮し、休みが無理なく取れるように、職員配置数を厚くしている。</p> |   |   |
| (3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。   |   |   |
|  | <p>① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。</p>   | b |

|   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。 |  |
| <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。                              |  |
| <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。                       |  |

【判断した理由・特記事項等】

年1回、施設長と職員の面接を定期的に行っている。面接時に使用する職務自己評価票には、判断力や調整力等の16項目について、「期待し求められる水準」を示し、期待する職員像をあげている。外部研修への職員派遣は、職員の職種や能力、経験、担当区分等を考慮して決めている。職務自己評価票には、次の目標の記入欄がないので、次年度からは改善する予定である。また、定期面接は年1回ではなく、中間面接も必要であると捉え、今後の課題としている。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ② | 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。   | b |
|   | <input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。                  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。                                  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。  |   |
|   | <input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。                                     |   |

【判断した理由・特記事項等】

施設内研修は、研修委員会が中心になって計画し、実施している。外部研修は、全国乳児院協議会や県、市の研修に、職員の職種や能力、経験、担当区分等を考慮して、職員を派遣している。職員を育成していく上で、研修参加の機会を確保することはとても大切と捉え、外部研修に積極的に職員を派遣できるよう、職員配置数を厚くしている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ③ | 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。   | b |
|   | <input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。                               | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。                       |   |
|   | <input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。                              | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。                                | ○ |
|   | (5種別共通)<br><input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。           |   |

【判断した理由・特記事項等】

職員の職種や能力、経験、担当区分等を考慮して、外部研修に職員を派遣している。常勤の職員は年1~2回、外部研修に参加している。また、外部研修参加後の復命書の内容を変え、他の職員に伝えたいこと、何故それを伝えたいかを記入するよう改善している。復命書は回覧し、クラス会議の中で研修報告を行っている。職員の退職等により、OJT(職場内の現任訓練)の体制が十分ではないと考えている。また、スーパービジョン(対人援助職の教育方法)については、今年度中に外部講師を招き、研修を行う予定である。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。                 | b |
|   | <input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。                | ○ |



|   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。  |   |
| <input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。   | ○ |
| <b>【判断した理由・特記事項等】</b><br>実習生の受け入れは、マニュアルを整備し、主任が調整している。実際の受け入れは、実習生係（中堅職員）が調整、評価している。実習からボランティア活動、就職につながったケースもあり、実習生の受け入れを積極的に行っている。経験年数が浅い職員もいるため、実習担当が偏る面もあるが、実習生係は中堅職員が担うため、職員への評価として受けとめられることもある。 |   |

### 3 運営の透明性の確保

|  |             |
|--|-------------|
| (1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。   | 第三者<br>評価結果 |
| ① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。  | b           |
| <input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。  | ○           |
| <input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。  | ○           |
| <input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。  |             |
| <input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。   | ○           |
| <input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。   |             |
| <b>【判断した理由・特記事項等】</b><br>ホームページはあるが、乳児院という特性から、積極的な情報提供には限界がある。また、乳児院には保護者の同意を得ないで子どもが入所する一時保護があり、積極的な情報提供は、子どもの奪還等のリスクがある。入所の同意が得られている家族等には、月1回お便りを配布している。お便りには、子どもやイベントの情報を載せ、スペースの一部に担当がメッセージを書き、面会時に手渡ししたり、郵送している。 |             |
| ② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。  | b           |
| <input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。   |             |
| <input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。   | ○           |
| <input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。   | ○           |
| <input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。   | ○           |
| <b>【判断した理由・特記事項等】</b><br>職務分掌や責任の所在等の基準にあいまいな部分があるため、今後の課題と考えている。会計に関しては、法人として外部の機関に相談・助言等が受けられる体制を整え、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みを目指している。また、月1回、法人内の施設長が集まる施設長会議で、相談・助言等が受けられる体制を整えている。                                 |             |

### 4 地域との交流、地域貢献

|  |             |
|--|-------------|
| (1) 地域との関係が適切に確保されている。   | 第三者<br>評価結果 |
| ① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。  | b           |
| <input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。  |             |
| <input type="checkbox"/> 子ども個々の個別状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。         | ○           |
| <input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。                       | ○           |
| <input type="checkbox"/> 子どもへの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。 | ○           |

【判断した理由・特記事項等】

小さい子どもでも参加できる地域のイベントには、積極的に参加している。地域の自治会の夏祭り等、同一建物内にある児童養護施設から情報を得て、子どもたちが参加している。また、地域に向けた研修として、9月に施設の食堂を使って、「ベビーマッサージ」を行い、施設の子どもたちも参加して、地域の方と交流した。研修会は好評だったので、来年度は2か月に1回は開催していきたい。「ベビーマッサージ」は、法人内の障害者生活介護事業所の資格を持った職員が講師を担った。今後も施設の専門性を地域に還元できる取り組みを継続していきたいと考えている。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ② | 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。                                  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。                          |   |
|   | <input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。                     |   |

【判断した理由・特記事項等】

施設長を受け入れ担当とし、ボランティアの受け入れを行っている。ボランティア希望の方とは、事前に面接し、乳児院の特性や留意事項を説明している。説明後、ボランティア活動につながらなかった方もいる。また面接の際に、どのようなボランティア活動を行いたいのか希望を聴き、可能な限り対応している。現在、玩具の清掃や環境整備、散髪、子どもの支援等に、ボランティアが関わっている。外部の目をきちんと入れたいと考えているが、子どもたちが小さいため、ボランティアはおおむね一日一人の活動としている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。   | b |
|   | <input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。  |   |
|   | <input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。                           | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。                                  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。             | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

児童相談所とは常に連絡を取り合い、適宜カンファレンスや家族を含めた三者の話し合い等を行っている。また、子どもたちが通っている幼稚園や認定こども園、医療機関や民生児童委員とも連携している。子ども一人ひとりの状況により、関係機関が異なるので、ケースに応じた連携を行っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

地域住民や地域の支援者に感謝の意味を込めて、同一建物内の児童養護施設と合同で、毎年秋に「あしたば祭」を開催している。「あしたば祭」には、地域の方が多く参加する他、退所した子どもたちに元担当者がメッセージを書いて送り、参加を呼び掛けている。今年度も7～8人の参加があった。また、地域に向けた「ベビーマッサージ」はとも好評だったので、来年度は2か月に1回は地域に向けた研修等を開催していきたいと考えている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ② | 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。 | ○ |

|   |  |   |
|---|--|---|
|   | <input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。                      |   |
|   | <input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。       |   |
|   | <input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。        | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。 |   |
| 【判断した理由・特記事項等】  |  |   |
| 地域と顔の見える関係作りを目指している。地域に向けた「ベビーマッサージ」はとても好評だったので、来年度は2か月に1回は開催していきたいと考えている。市からの受託事業であるショートステイ事業を継続するとともに、地域で小さい子どもを育てている保護者のために、子育て支援等も必要と捉えている。 |  |   |

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

|   |  |             |
|---|--|-------------|
| (1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。   |  | 第三者<br>評価結果 |
| ① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。   | <input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。<br><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。<br><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。<br><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。<br><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。 | b           |
| 【判断した理由・特記事項等】  |  |             |
| 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつため、「養育基本方針」を定めている。「養育基本方針」は、職員採用時に「乳児院倫理綱領」等とともに内容を説明し、書面を配布している。子どもたちに安心・安全な環境を提供できるよう、職員会議の場で職員に繰り返し周知している。職員が研修会等に積極的に参加できるよう配慮している。                               |  |             |
| ② 29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。   | <input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。<br><input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。<br><input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。<br><input type="checkbox"/> 保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。  | a           |
| 【判断した理由・特記事項等】  |  |             |
| 個人情報保護規程を整備し、職員採用時に内容を説明し、書面を配布している。特に写真の取り扱いについては注意を促し、毎月発行している「お便り」についても、子どもの写真は後ろ姿で載せ、施設長等が最終チェックを行っている。職員のスマートフォンによる写真撮影も基本的に禁止している。保護者の面会時にも、他の子どもは写さないように投げ掛け、子どものプライバシーの保護に配慮した取り組みを行っている。 |  |             |
| (2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。  |  |             |
| ① 30 保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。   | <input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。<br><input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。  | b           |
|   |  | ○           |
|   |  | ○           |

|   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 施設に入所予定の保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。 | ○ |
| <input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。                     | ○ |
| <input type="checkbox"/> 保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。     | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

乳児院の特性から、事前に施設見学を行うことができる家族は少ないが、ショートステイの利用等に関しても、事前に施設を見学してもらい、利用に必要な情報を提供している。一時保護等で急遽入所することになった家族にも、事後に見学、説明を行っている。職種に関係なく、職員全体で家族支援を行うよう努めている。子どもの月齢によって、人見知りの時期があり、保護者が面会に来て泣いてしまうことがある。子どもの状況を保護者に丁寧に説明し、定期的な面会を促し、保護者からの相談には真摯に耳を傾けるようにしている。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ② | 31 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。   | b |
|   | <input type="checkbox"/> 保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。                        | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。                                    | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 意思決定が困難な保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。                                     | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

子どもの記録等は、保護者からの希望に合わせ開示している。また、積極的に保護者と児童相談所との三者の話し合いを行い、養育・支援の内容について、保護者に理解しやすい取り組みを行っている。子どもたちの通院に際しても、できるだけ家族に同行してもらい、医師等の専門職の説明を聴く機会を提供できるように配慮している。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ③ | 32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。                              | b |
|   | <input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。           | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。           | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。                 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

措置変更や家族・地域への移行を行う際には、子どもたちにストレスがかからないよう、状況を確認しながら、時間をかけて交流できるよう配慮している。子どもたちにも声掛けを多くし、半日、一日、一泊と、時間を掛けて働きかけている。また退所後も、相談しやすいようにして、「あしたば祭」等の施設行事への参加も呼び掛けている。「あしたば祭」には、措置変更になった子どもや、家庭に戻った子ども、里親等を利用している子どもが訪れている。相談窓口や第三者委員の設置等を、入所時に保護者に説明している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ① | 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 子どもとの日々の関わりのなかで、子どもの満足を把握するように努めている。                      | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 職員等が、保護者等とのコミュニケーションを可能な範囲で図り、定期的に保護者等の満足を把握している。         | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 把握した子どもの満足を集約する担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために検討会議の設置等が行われている。 |   |
|   | <input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。                               |   |

【判断した理由・特記事項等】

子どもの満足度の把握は、子どもたちが幼く、自分の気持ちを言葉に表すことができないため、日々の養育・支援の場面で職員が把握するように努めている。職員間で情報を共有しながら、試行錯誤して、養育・支援を実践している。保護者からの相談や電話での問い合わせに対応するため、児童相談所とのやりとりや保護者支援を担当する専門職員の1人は、必ず勤務する体制を整えている。保護者からの質問や疑問が上がった際には、施設長を含め職員全体で内容を共有し、解決していくようにしている。

(4) 保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ① | 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。                                    | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た保護者等のプライバシーに配慮したうえで公開している。      | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。  | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

苦情解決の仕組みを整備し、施設内の目につきやすい場所に掲示している。保護者には入所時に仕組みや苦情相談窓口、第三者委員の設置を説明している。保護者の面会時には、職員が必ず声を掛け、普段の子どもの生活の様子等を話し、保護者の疑問等に迅速に対応している。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ② | 35 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 保護者等が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。                       | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。                          | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

苦情解決の仕組みを整備し、施設内の目につきやすい場所に掲示している。保護者には入所時に仕組みや苦情相談窓口、第三者委員の設置を説明している。保護者の面会時には、職員が必ず声を掛け、普段の子どもの生活の様子等を話し、保護者の疑問等に迅速に対応している。保護者の声は、家庭支援担当職員や養育現場の保育士等、近くにいる職員が積極的に聴くようにしている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ③ | 36 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。   | b |
|   | <input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、保護者等が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者等の意見を積極的に把握する取組を行っている。                         | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。                | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。         | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。                                  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。  | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

苦情解決の仕組みを整備し、施設内の目につきやすい場所に掲示している。保護者には入所時に仕組みや苦情相談窓口、第三者委員の設置を説明している。保護者の面会時には、職員が必ず声を掛け、普段の子どもの生活の様子等を話し、保護者の疑問等に迅速に対応している。保護者からの相談や意見は、職員全体で内容を共有し、内容によって児童相談所にも連絡し、解決に向けた取り組みを行っている。

|  |  |   |
|--|--|---|
| (5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。   |  |   |
| ①  | 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。  | b |
|  | <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。                          | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。  | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。              | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。   | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。                             | ○ |
| 【判断した理由・特記事項等】   |  |   |
| 月1回、リスクマネジメント委員会を定期的に開催し、事故やヒヤリハットの内容を検証して、再発防止の話し合いを行っている。リスクマネジメント委員会での話し合いの内容は、職員会議で報告し、注意喚起を図っている。年2回、救急救命法の研修会を開催し、職員全員が参加できるようにしている。   |  |   |
| ②  | 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。  | a |
|  | <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。                                      |   |
|  | <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。                       | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。                              | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。   | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。   | ○ |
| 【判断した理由・特記事項等】   |  |   |
| 看護師を中心に、感染症の予防に取り組んでいる。感染症対策のマニュアルを作成し、家族等の面会時にも協力をお願いしている。37℃以上の体温のある家族には面会を控えてもらう他、面会時には手洗いと咳が出る時等はマスクの着用をお願いしている。感染症の予防として、冬季のインフルエンザの予防接種を行うとともに、室内に加湿器を設置している。新生児は専用の部屋で養育し、感染症の予防に努めている。 |  |   |
| ③  | 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。   | b |
|  | <input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。   | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。 |   |
|  | <input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。                                    | ○ |
|  | <input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。                                     | ○ |
| 【判断した理由・特記事項等】   |  |   |
| 同一建物内の児童養護施設と合同で防災会議を開催し、毎月、火災や地震、津波を想定した避難訓練を行っている。防災会議では、避難訓練の計画や実施後の反省等、話し合いを行っている。避難時は、子どもたちの名簿を職員が持ち、点呼もれのないようにしている。散歩車を利用する等のマニュアルを作成している。施設の隣りに市の消防施設があり、避難訓練等は消防署と連携して行っている。           |  |   |

## 2 養育・支援の質の確保

|                            |  |             |
|----------------------------|--|-------------|
| (1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。 |  | 第三者<br>評価結果 |
| ①                          | 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。 | b           |

|  |   |                       |
|--|---|-----------------------|
|  | <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。                              | <input type="radio"/> |
|  | <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。 | <input type="radio"/> |
|  | <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。    |                       |
|  | <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。              |                       |

【判断した理由・特記事項等】

養育基本方針を定め、養育・支援についての標準的な実施方法を文書化している。職員採用時には、養育基本方針の他に倫理綱領やチェックポイント等の説明を行い、文書を配布して周知に努めている。また、職員会議の場等において、子どもたちの養育・支援のあり方を説明し、周知徹底を図っている。

|   |  |                       |
|---|--|-----------------------|
| ② | 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。                                       | a                     |
|   | <input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。  | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。            | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。           | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。 | <input type="radio"/> |

【判断した理由・特記事項等】

月1回開催する職員会議やクラス会議の場において、必要に応じて、標準的な実施方法の見直しや検討を行っている。また、各委員会においても、必要に応じて、見直しや検討を行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

|   |  |                       |
|---|--|-----------------------|
| ① | 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。  | a                     |
|   | <input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。  | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。  |                       |
|   | <input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。                      | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。                                      | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。 |                       |
|   | <input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。  | <input type="radio"/> |

【判断した理由・特記事項等】

半年に1回、自立支援計画の見直しを、アセスメントを基に行っている。自立支援計画の見直しは、担当職員が中心になってまとめ、全体のコントロールを家庭支援専門相談員が担っている。自立支援計画の内容は、施設長や主任、家庭支援専門相談員、担当職員で検討し、必要に応じて児童相談所や保護者との三者で話し合いを行い決定している。

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| ② | 43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。   | a                     |
|   | <input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。                              | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者等の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。 | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。                               | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。   | <input type="radio"/> |

|  |   |  |
|--|---|--|
|  | <input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。 |  |
|--|---|--|

【判断した理由・特記事項等】

半年に1回、自立支援計画の見直しを、アセスメントを基に行っている。自立支援計画の見直しは、担当職員が中心になってまとめ、全体のコントロールを家庭支援専門相談員が担っている。自立支援計画の内容は、施設長や主任、家庭支援専門相談員、担当職員で検討し、必要に応じて児童相談所や保護者との三者で話し合いを行い決定している。見直しの内容は、職員全員が確認できるようにしている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | <b>44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</b>                                 | a |
|   | <input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。                 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。                | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。        | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。         |   |
|   | <input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。                      |   |
|   | <input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

養育、家庭支援、看護それぞれが、子どもの状況を記録し、内容はどの職員でも確認できるようにしている。乳児院においては、子どもの健康状態を全職員が把握する必要があるため、子どもの「生活の記録」に随時記録し、いつでも状況を確認できるようにしている。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ② | <b>45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</b>   | a |
|   | <input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。             | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。                               | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。         | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。                       | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。                       | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

個人情報保護規程を整備する他、文書保存規程も定めている。文書の管理責任者を施設長として、個人情報保護については職員の採用時の研修の中で説明している。また、保護者にも、入所時に個人情報の保護について説明を行っている。

内容評価基準 (23項目)

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

|              |  |   |
|--------------|--|---|
| (1) 子どもの権利擁護 | 第三者<br>評価結果  |   |
| ①            | <b>A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</b>                                  | a |
|              | <input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。 |   |
|              | <input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。    | ○ |



|  |                                 |   |
|--|---------------------------------|---|
|  | □権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。 | ○ |
|--|---------------------------------|---|

【判断した理由・特記事項等】

子どもの権利擁護は基本方針にも明示し、新任職員の入職時には、資料を使って、権利擁護について説明している。また、年度初めの職員会議で、施設長から子どもの権利について話をしている。毎月開催するクラス会議においても、日々の養育を振り返り、普段使っている言葉掛け等が子どもの権利を侵害していないか話し合っている。子どもたちに対して、家族の希望がある場合を除き、ニックネームでの声掛け、呼び捨てを禁止している。

(2) 被措置児童等虐待の防止等

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | A2 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。                     | b |
|   | □不適切なかかわりについて、具体的な例を示し職員に徹底している。                        | ○ |
|   | □会議等で取り上げる等により、不適切なかかわりが行われていないことを確認している。               | ○ |
|   | □不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。                |   |
|   | □不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。                          |   |
|   | □被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。 |   |

【判断した理由・特記事項等】

対象が乳幼児であるため、特に不適切な関わりが起きないように、職員会議やクラス会議で職員の言葉掛けが適切か振り返り、乳児院は子どもを守る施設であることの意識を高めている。子どもが泣いたり、騒いだり、食事中落ち着かない時等、注意の仕方について話し合い、言葉掛け等を工夫している。子どもの名前呼び捨ては禁止している。法人の人権委員会にて、子どもの人権や障害児の研修等を外部講師を招き開催したことがある。

A-2 養育・支援の質の確保

|              |             |
|--------------|-------------|
| (1) 養育・支援の基本 | 第三者<br>評価結果 |
|--------------|-------------|

|   |  |   |
|---|--|---|
| ① | A3 子どものころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。                             | a |
|   | □乳幼児に対する受容的・応答性の高いかかわりを心がけている。                                 | ○ |
|   | □子どもと養育者の信頼関係が築かれ、子どもが不安になった時など、いつでも応じられるように養育者が側にいるよう配慮されている。 | ○ |
|   | □どの乳幼児も保護者等、あるいは担当養育者、里親等、特定のおとなと個別のかかわりを持つことができる体制が整備されている。   | ○ |
|   | □特別な配慮が必要な場合を除いては、基本的に入所から退所まで一貫した「担当養育制」をとっている。               | ○ |
|   | □担当養育者と個別のかかわりを持つことができる時間を確保している。                              | ○ |
|   | □語りかけや「だっこ」「おんぶ」などの身体のふれあいを通して心の安定を図り、心地よい状態を共有できるよう努めている。     | ○ |
|   | □被虐待経験のある乳幼児等特別な配慮が必要な乳幼児に対しては、個々の状態に応じた関係づくりを行っている。           | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

子どもとの愛着関係を築くため、入所から退所まで一貫した「担当養育制」を取り入れている。月齢によっては、担当職員に抱っこをしてほしい、離れたくない時期があるため、担当職員は勤務が終わっても寝かしつけるまで一緒にいたり、ゆっくりと一緒に風呂に入ったりして、子どもの気持ちを受け入れ、関係作りをしている。特に保護者の面会のない子どもには、担当職員との時間を作り、個別の外出ができるようにしている。常に職員は抱っこ、おんぶをして、身体に触れ合うことで情緒の安定を保つことができるようにしている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ② | A4 子どもの生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。                 | b |
|   | □日々の生活リズムは発達や子どもの気持ちに沿いながら一人ひとりにあった形で進められている。 | ○ |
|   | □施設に子どもが安心して暮らせる温かな家庭的雰囲気がある。                 | ○ |

|  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 居室が安心して、くつろいだり、落ち着ける場所になっている。                                 |   |
| <input type="checkbox"/> 安定した環境の中、おもいおもいに遊ぶことができる安全で使いやすい遊具などがあり、自由に遊びに取り組めるよう配慮されている。 |   |
| <input type="checkbox"/> 他児と区別された「自分のもの」といえる玩具、食器、衣類、戸棚などの個別化が図られている。                  | ○ |
| <input type="checkbox"/> 満足感の得られる養育者との遊びの時間を提供している。                                    | ○ |
| <input type="checkbox"/> 自然と触れ合える外遊びが養育者との十分なやりとりを交え提供されている。                           | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

子どもの生活リズムに合わせて、一日を過ごせるようにしている。寝たい時にお昼寝をする子ども、散歩に行く子ども、おもちゃで遊ぶ子ども、子ども園に通っている子ども等、子どもの気持ちに寄り添い、月齢にあった生活を体験している。職員と一緒にドングリ拾いや虫探しに行ったり、散歩したり、夏は海岸での水遊び、秋にはサツマイモ堀りやいちご狩り等を、子どもたちは楽しんでいる。また、お正月やお月見、ハロウィン、クリスマス等、季節の行事も楽しんでいる。おもちゃは施設で用意しているものや個人のものがあり、個人別の引き出しに入れて、職員や他児と一緒に遊んでいる。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ③ | A5 子どもの発達を支援する環境を整えている。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 養育者は、月齢による発達特性(自我の表出等)を認識し、養育に当たっている。                 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 入所までの生活環境や身体的成長の差等から生じる子ども一人ひとりの違いを十分に把握し、尊重している。     | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの欲求や要求に対し、抱いたり声をかけるなど、タイミング良く気持ちを受け止め対応している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 子どもの個々の発達や状態に応じた適切な言葉を用い、穏やかに言葉かけをしている。               | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 言葉を獲得し話し始めた子どもの問いかけには、できる限りその場で応答している。                |   |
|   | <input type="checkbox"/> 「いや」など駄々をこねたり、自分を表現する力がまだ十分でない子どもの気持ちをくみ取ろうとしている。     | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

入所時の状況や月齢等がまちまちなので、子どもの発達や成長の状況を十分に把握し、個別の支援を心がけている。現在は新生児がいるので、新生児室で時間にあつた授乳等の対応をしている。また身体的な部分に注意を要する子どもには、呼吸の状態等の観察を頻繁に行っている。抱っこなどの要求のある子どもには、素早く応じている。すぐに抱っこができない場合は理由を説明し、必ず後で応えるようにしている。子どもに対しては、優しい言葉掛けを心掛け、言葉で自分を表現できない子どもは、職員が気持ちをくみ取り、代弁して伝えるようにしている。

(2) 食生活

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | A6 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。  | a |
|   | <input type="checkbox"/> 授乳は、自律授乳を基本としつつ、個々のリズムや体調に合わせて量や時間を工夫している。             | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 授乳時は、乳幼児を抱いて、目を合わせ、やさしく言葉をかけ、ゆったりとした気持ちで飲めるように配慮している。  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 授乳後は、吐乳・溢乳等を防ぐために排気を十分に行っている。                          | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 一人飲みをさせていない。   |   |
|   | <input type="checkbox"/> 生体リズムの乱れなどで自律授乳や自発的意思の授乳が難しい乳幼児には、その子の状態に応じた授乳を工夫している。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

1日に7～8回の新生児の授乳は、ミルク量をはかり、ケースに入れて準備している。職員が可能な限り抱っこをして飲ませ、げっぷをさせる等、子どもと目を合わせて話しかけたりしてゆったりと行っている。調乳の方法等は、新しい職員には先輩の職員が教え、一緒に行っている。「生活記録」にミルク量、体重増加、排便の状態等を記録し、一人ひとりの成長の様子を把握している。

|   |                            |   |
|---|----------------------------|---|
| ② | A7 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。 | a |
|---|----------------------------|---|

|  |                          |
|--|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> 在胎期間も含め、入所に至るまでの経過や発育、発達状況を踏まえ、一人ひとりに合わせた食の取組が行われている。 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 個々の状態に合わせて離乳を開始し、様々な食べ物や味に慣れさせている。                    | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 食事をいやがったり遊びだしてしまう場合にも、時間をかけてゆったりとした気持ちで与えている。         |                          |
| <input type="checkbox"/> 噛む力を養うために、食品の種類や調理方法を工夫している。                          | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 栄養士や調理員等は養育者とともに、咀嚼や嚥下の状況を確認し発育状況や体調を考慮しながら離乳食を進めている。 | <input type="checkbox"/> |

【判断した理由・特記事項等】

個々の状況に応じて、栄養士が「食箋表」を作っている。子どもの食事の形態、形態を上げた時の状況、食べ方、咀嚼の仕方等を、担当職員と栄養士、主任等で話し合い、子どもの状況に合わせて食事を提供している。完了期になっても、なかなか咀嚼がうまくできない子どもには、咀嚼の練習のために、野菜やフランスパンでスティックを作り、「かみかみ」ができるよう対応したりしている。離乳食のプログラムに頼るだけでなく、個々の子どもの状況に合わせて、少量で時間をかけて様子を見る等、味や食べることに無理なく慣れるようにしている。

|   |                             |   |
|---|-----------------------------|---|
| ③   | A8 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。 | b |
| <input type="checkbox"/> 食事場所は清潔に保たれ、明るく楽しい雰囲気できらびよくできている。  | <input type="checkbox"/>    |   |
| <input type="checkbox"/> 子どもが食べやすいように、身体に合わせてテーブルと椅子の高さを適切に調整している。  |                             |   |
| <input type="checkbox"/> 乳幼児が自分で食べようとする意欲を育てられるように、手に持って食べやすいものを用意したり、食器やスプーンなどに触れられるように配慮している。                     | <input type="checkbox"/>    |   |
| <input type="checkbox"/> 食前の手洗い、食前食後のあいさつ、食後の歯磨きなどが定着するよう支援している。  | <input type="checkbox"/>    |   |
| <input type="checkbox"/> 養育者や他児と一緒に食事を楽しんでいる。   | <input type="checkbox"/>    |   |
| <input type="checkbox"/> 食事の食べ方や量にははらつきがあっても全部食べることにこだわらず、おいしく楽しく食べられるように、子どもと視線を合わせ、様子をみながら言葉をかけるなど雰囲気づくりに気を配っている。 |                             |   |
| <input type="checkbox"/> 日々の食生活を通じて食べたいものや好きなものが増える工夫がされている。  | <input type="checkbox"/>    |   |
| <input type="checkbox"/> お腹がすくリズムが持てるよう、朝食・昼食・夕食の間隔は適正になっている。   | <input type="checkbox"/>    |   |
| <input type="checkbox"/> 栄養士、調理員等が、食事の様子をみたり、介助するなか、一人ひとりの発育状況や体調を考慮した調理を工夫している。                                    | <input type="checkbox"/>    |   |

【判断した理由・特記事項等】

好き嫌いなく食べることに拘らず、子どもたちが楽しい雰囲気の中、養育者と一緒においしく食べることを大切にしている。苦手なものを一口でも食べることができた時は、たくさん褒め、いろいろな食材を口にして知る機会が持てるようにしている。子どもたちが好きなものをお腹いっぱい食べて、満足することで心の安定につながっている。また、2か月に1回、「みんなでお昼」という日を設け、担当職員だけでなく、栄養士や事務員、他の事業所の職員も加わり、子どもたちと一緒に楽しく食事をしている。食事時には、栄養士が子どもたち一人ひとりの様子を確認している。

|   |                          |   |
|---|--------------------------|---|
| ④   | A9 栄養管理に十分な注意を払っている。     | a |
| <input type="checkbox"/> 十分なカロリーと栄養のバランスよい献立が、栄養士により準備されている。                          | <input type="checkbox"/> |   |
| <input type="checkbox"/> 栄養だけではなく季節感を取り入れた食事が提供されている。                                 | <input type="checkbox"/> |   |
| <input type="checkbox"/> 乳幼児の体調、疾病、アレルギー等に個別に対応した食事を提供している。                           | <input type="checkbox"/> |   |
| <input type="checkbox"/> 乳幼児の嗜好や栄養摂取量の把握に努め、献立に反映している。                                | <input type="checkbox"/> |   |
| <input type="checkbox"/> さまざまな「食育」への取組を行っている。   | <input type="checkbox"/> |   |
| <input type="checkbox"/> 発達に応じて、食事の準備や食事作りを見たり、かかわる機会を持ち、食べることに興味関心を持つことができるよう工夫している。 | <input type="checkbox"/> |   |

【判断した理由・特記事項等】

年齢別栄養所要量に基づき、栄養士が献立を作成している。献立は1週間ごとに各クラスに貼り出し、個々の食箋表に沿った形態で食事を提供している。以前は重篤のアレルギーのある子どもがいたが、現在は軽度のアレルギーのある子どもがいる。アレルギーのある子どもには、トレイや食器の色を変えて、間違いのないようにして提供している。体調不良の子どもが出た場合は、朝の引き継ぎ時やその都度、職員が栄養士へ連絡し、雑炊やうどん、ゼリー等、食べやすい食事をすぐに提供している。子どもたちは食材を見る機会が少ないので、皆の前でリンゴの皮むきやトウモロコシの皮むきを行ったりしている。

(3) 日常生活等の支援

|   |  |   |
|---|--|---|
| ① | A10 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。   | a |
|   | <input type="checkbox"/> 衣類は吸湿性・通気性に富み、清潔を保ち、肌に刺激の少ない材質を使用している。  |   |
|   | <input type="checkbox"/> 乳幼児の体型を考慮し、活動を阻害せず、着脱が容易なものを使用している。   |   |
|   | <input type="checkbox"/> 気候調節へ配慮し、寒暖の状態に適した枚数と厚さにしている。   | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 寝ている生活が主などときは開きのあるものを、動きが活発になったら活動的で腹部や背中に出ないものを選ぶなど、生活実態に適し、個々の発達に応じた衣類管理を行っている。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 衣類は個別化し、個人別に収納している。   | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

保護者が用意する子どももいるが、多くの子どもは担当職員が発達や年齢にあった衣類を、季節に合わせて購入している。新生児には新生児に適した衣類を用意し、体温調節を行っている。運動量の多い活発な子どもには、着脱しやすい衣類を準備している。衣類は個別の引き出しに収納し、いつでも着たい衣類を選べるようにしている。子どもたちの衣類は、毎日汚れる度に着替えて洗濯し、清潔を保つように努めている。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ② | A11 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。   | a |
|   | <input type="checkbox"/> 室内の環境として、温・湿度、換気、明るさ、静かさ、音楽などを快適に保っている。                 |   |
|   | <input type="checkbox"/> 寝具の環境として、肌に触れる素材は綿素材を用い、広さ、形状、硬さなどを快適に保っている。            | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 睡眠時の状況を観察している。  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 快適に十分な睡眠をとれるよう、個々の乳幼児の発達・心理に配慮した職員の対応など具体的な独自の取組を行っている。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

室内はカーテン等で落ちついた雰囲気を作り、眠る前は絵本の読み聞かせをしている。安心して入眠できるようオルゴールのCD等をかけ、子どもたちが入眠するまで、職員が側についている。1歳未満児は15分ごとに、1歳以上児は30分ごとに呼気のチェックをし、乳幼児突然死症候群の予防に努めている。生活記録用紙にチェックし、毎日の記録を残している。天気の良い日は毎日、寝具を干し、シーツ類も洗濯して清潔を保っている。夜中にお漏らしをしてしまった時には、すぐに清潔なものに換え、安心して寝ることができるよう配慮している。

|   |  |   |
|---|--|---|
| ③ | A12 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。   | a |
|   | <input type="checkbox"/> 入浴・沐浴を毎日している。                             | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 浴室・沐浴槽などの設備やタオル・バスタオルなどの備品は常に清潔が保たれている。   | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 乳幼児の年齢、発達、発育等、個々の状況に応じた入浴方法がとられている。       | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 安心して、心地よく、楽しい入浴・沐浴になるような言葉掛けなどの配慮がなされている。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 入浴・沐浴に際し、おもちゃ等を用意し、心地よい体験になるよう工夫している。     | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

新生児の沐浴は午前中の暖かい時間帯に行い、幼児は家庭用のお風呂で毎日、夕方に入浴している。幼児の中には、お風呂で遊ぶのが好きでなかなか出ない子どももいる。職員と一緒に入り、安心して入浴できるようにしている。タオルやバスタオルは個別に使用し、清潔を保っている。浴室や浴槽も清潔に保つよう配慮している。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ④ | A13 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> おむつ交換のときに、言葉をかけながら身体をマッサージなどして、おむつ交換が心地よいものであることを伝えるように心がけている。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、排泄への興味を持てるように配慮している。                                  |   |
|   | <input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、おむつが濡れていないときは、便座に誘導するなどして自分から便座に座る意欲を持てるように配慮している。    |   |
|   | <input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、個々の幼児のリズムや気持ちに合わせて誘導を行っている。                           |   |

【判断した理由・特記事項等】

おむつ交換は、トイレのおむつ交換台を使用しているが、養育室で行う時もある。おむつ交換時には、「きれいにしようね」「きれいになって気持ちいいね」等、優しく声を掛けながら、綺麗になる心地よさを言葉で伝え、コミュニケーションを図っている。幼児用トイレには、かわいいキャラクター等を貼り、トイレに関心が向き、便座に座ることが楽しくなるような環境作りをして、トイレトレーニングにつなげている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ⑤ | A14 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。  | a |
|   | <input type="checkbox"/> 玩具の色・形や音色などを選ぶように工夫している。                                   |   |
|   | <input type="checkbox"/> 戸外に出かけ、外界への興味を広げられるように配慮している。                              | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 模倣遊びや職員や他の乳幼児とのふれあい遊びを通して、情緒の育成を図り、人との豊かなかわりができるように配慮している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 養育者や他の子どもと楽しく遊ぶことができるよう心がけている。                             | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 子どもの五感を育てる遊びが提供できるよう工夫している。                                |   |
|   | <input type="checkbox"/> 月齢により、収納場所を設け、玩具の個別化をし、自分の物という喜びや認識ができるよう工夫している。           | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 子どもの手の届く所に玩具の収納場所を設け、年齢によっては自由に出し入れして遊べるようにしている。           | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

子どもたちの五感を育てるため、積木や大小ブロック、人形、ぬいぐるみ、絵本等のおもちゃを用意し、室外では砂場や滑り台、コンビカー等で身体を使った遊びができるようにしている。誕生日やクリスマスのプレゼントとして、担当職員が発達や月齢にあった玩具を購入し、個別の玩具箱に入れ、いつでも遊ぶことができるようにしている。天気の良い日は、積極的に戸外に出て、公園等で思い切り身体を動かすようにしている。室内のおもちゃは毎日水拭きや消毒を行って、口に入れても安全な状態にしている。砂場は、猫が入らないようカバーを掛けている。

(4) 健康

|   |   |   |
|---|---|---|
| ① | A15 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。  | a |
|   | <input type="checkbox"/> 健康観察記録を作成し、日々の健康状態の変化が一目で把握できるように工夫している。                             | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 日常的に医療機関等と適切に連携するよう努めている。  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 嘱託医による定期健康診断では、身体発育の状態や精神・運動発達・情緒的問題等について総合的な診察を行っている。               | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 乳幼児の条件や集団の構成に応じて、適宜予防接種を行っている。                                       | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 異常がある場合には、医療機関を受診するなど適切に対応している。                                      | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> ミルクや離乳食を開始した当初は、発疹などアレルギー症状の出現に注意し、異常所見が見られた場合には速やかに医師に相談し対応策を講じている。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

毎月、市内の小児科の嘱託医が往診し、子どもたち一人ひとりの健康状態を管理している。毎日担当者が、子どもの体温、食事や水分摂取量、排便の状況、機嫌等を生活記録用紙に記録している。看護師も看護日誌に子どもの健康状態を記録している。こどもに異常が見られる時には、看護師に相談して受診につなげている。てんかんその他で定期受診が必要な子どもが5人おり、職員が受診に付き添い、状態を報告して共有している。離乳食を始めた子どもは、特にアレルギーの出現に注意して、細かな観察を行っている。

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| ② | A16 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。   | a                     |
|   | <input type="checkbox"/> 病・虚弱児等個々の健康状態の変化が、常に把握できるように工夫している。  | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 服薬管理表等により、適切な服薬管理を行っている。   | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 専門医や主治医の協力のもと、乳幼児の健康状態に応じた療育計画や発達支援計画などを含む支援のプログラム等を作成して、乳幼児の適切な発達を支援している。 | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 専門医や主治医による定例的な診断を受けている。  | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 異常所見がみられた場合には、速やかに専門医や主治医に相談できる連絡体制をとっている。                                 | <input type="radio"/> |

【判断した理由・特記事項等】

健康状態に留意しなければいけない子どもが多いため、子どもたちの身体の変化を全職員が把握し、共有する体制を取っている。子どもたちに変化があった時には、日中と夜間に分けて、対応方法を決めている。定期的に薬を服用している子どもが何人かいるため、看護師が個別のケースに、朝・昼・夕別に薬をセットしている。夜勤者が個別ケースの薬と生活記録にある薬処方を確認し、他のクラスの夜勤者が同じように確認し、ダブルチェックを行っている。さらに服薬介助を行う職員が、もう一度子どもの名前や薬ケースの現物、生活記録の薬処方を確認し、3人体制で誤と薬の防止に努めている。

(5) 心理的ケア

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| ① | A17 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。  | b                     |
|   | <input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする乳幼児について、保護者等への支援も視野に入れた自立支援計画や養育計画に基づき、心理支援内容が明示されている。 | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 心理支援内容には、個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的支援が実施されている。                    | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 心理職をおき、乳幼児にも保護者等にも心理的な援助を行える体制が整っている。                              | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 必要に応じて外部の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。                                   | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な乳幼児や保護者等への対応に関する職員研修やコンサルテーションが行われている。                   | <input type="radio"/> |

【判断した理由・特記事項等】

心理療法士を配置し、日頃から子どもに関わり、心理的援助を行っている。また施設長が心理士であり、心理士のコーディネータの役割を担っている。子どもの自立支援計画は、心理療法士と連携して作成している。また、保護者から希望があれば、相談面接を行う体制を整えているが、現時点では保護者からの希望は上がっていない。

(6) 親子関係の再構築支援等

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| ① | A18 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。                                 | a                     |
|   | <input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員が中心となって施設と家族との信頼関係を構築するように努めている。            | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 施設が家族と共に子どもの成長を喜び合う雰囲気大切にしている。                       | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 面会時に必要に応じて保護者等の養育スキルの向上を支援している。                      | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 保護者等の相談に積極的に応じるための保護者等面接の設定等、専門的なカウンセリング機能の充実に努めている。 | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員は、家族に寄り添い、保護者等の言葉を傾聴する役割を担っている。             | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 乳幼児の協働養育者として、日常生活の様子を写真やお手紙に書いて家族に伝えている。             | <input type="radio"/> |

【判断した理由・特記事項等】

家族との関わりの窓口は、主に施設長、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員が担当しており、保護者からきょうだい児の相談を受けたりすることがある。面会時には、職員からも積極的に話しかけ、保護者と一緒におむつ交換や調乳、入浴等を行い、保護者の養育スキルの向上を支援している。保護者の中には、電話をしてもつながらず、なかなか連絡の取れない保護者がいるため、月1回、施設での子どもの様子を写真やイラスト入りで「しらかばベビードより」として送っている。

|   |   |   |
|---|---|---|
| ② | A19 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。   | a |
|   | <input type="checkbox"/> 家庭支援に関する具体的なプログラムや配慮事項が明記されている。  |   |
|   | <input type="checkbox"/> 入所理由の理解とケアの方向性についてアセスメントしている。  |   |
|   | <input type="checkbox"/> 子どもと家族との関係調整については、定例的かつ必要に応じて児童相談所等と協議を行っている。                                  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 面会、外出、施設宿泊、一時帰宅などを計画的に設定し、乳幼児と保護者等との関係性が好転し、保護者等の養育意欲が向上するよう支えている。             | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の乳幼児の様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかかわりがあった場合には、その発見ができるように努めている。             | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 課題の内容によっては適切な機関につなげられるよう、地域の精神、心理相談のできる機関を十分に把握し、連携をとっている。                     |   |
|   | <input type="checkbox"/> 児童相談所を中心とした他機関との協働により、虐待の未然防止と家族機能の再生、親子関係の再構築に向けてのサービス資源の提供などのソーシャルワークを行っている。 | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

親子関係の再構築は理想だが、子どもが小さければ小さいほど、保護者との関係にはリスクを伴うことが多い。面会が少なく、人見知りして来園した保護者の所には行かず、泣いてしまう子どももいるが、子どもに寄り添いながら、保護者との関わりがうまくいくよう努めている。保護者の面会時は、保護者が子どもに適切に関わることができるか注意深く観察し、気になる点は、職員間で内容を共有し、必要に応じて児童相談所とも連携して不適切な関わりを発見できるようにしている。市が主催するサポートチーム会議等に参加し、他機関と協働しながら、家庭機能の再生に向けた話し合いを行っている。

(7) 養育・支援の継続性とアフターケア

|   |  |   |
|---|--|---|
| ① | A20 退所後、子どもが安定した生活を送ることができるよう取り組んでいる。                                    | b |
|   | <input type="checkbox"/> 子どもの退所先に応じて、退所後の生活に向けて必要な支援を行っている。              | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 退所後、施設に相談できる窓口(担当者)がある等、必要に応じた支援をするための体制を整えている。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 児童相談所や関係機関、民間団体等と連携を図りながら退所後の支援を行っている。          | ○ |

【判断した理由・特記事項等】

家庭復帰ができた子どもは、1か月後に必ず家庭を訪問し、子どもと保護者の様子を確認している。家庭訪問時には、保護者から相談を受けることもある。その後も電話で相談を受けたり、施設の方から電話連絡をして状況を把握している。同一建物内の児童養護施設に移行する場合は、同じ建物内なので密に連絡が取れ、職員が様子を見に行くことができる。里親に委託される場合も、里親との連絡を密にし、細かな子どもの癖等を伝え、良好な関係作りを行っている。

(8) 継続的な里親支援の体制整備

|   |  |   |
|---|--|---|
| ① | A21 継続的な里親支援の体制を整備している。  | b |
|   | <input type="checkbox"/> 養育単位の小規模化による家庭的養護の推進や、早期に家庭復帰が見込めない乳幼児には個々の状況に応じて里親委託を推進している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 里親委託の推進に当たり、里親支援機能の充実などの中・長期計画を明確にしている。                       | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 里親支援専門相談員を配置するなど、里親委託の推進、地域の里親及びファミリーホームに対する継続的な支援の体制を整備している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 里親委託に当たり、委託に至るまでに里親・児童相談所等と丁寧な連携を行っている。                       | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 里親を希望する地域の人を対象に相談を行うなど、支援の取り組みを行っている。                         | ○ |

相談支援のほか研修、レスパイトを行うなど、里親の状況に応じた取り組みを行っている。

【判断した理由・特記事項等】

里親支援専門相談員を配置し、里親への委託に積極的に取り組んでいる。児童相談所の里親担当とも密に連絡を取り、情報交換し、里親と子どもの良い出会いが見つかるように面接等を繰り返し行っている。里親の行事や里親会の理事会等には、里親支援専門相談員が積極的に参加している。これまで数人、里親委託を行った子どもがいる。また里親のレスパイト体制として、退所した子どもの宿泊を受け入れていることもある。

(9) 一時保護委託への対応

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| ① | A22 一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。   | b                     |
|   | <input type="checkbox"/> 児童相談所と連携して、初期の情報共有とアセスメントに努めている。                                   | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 一時保護を受ける際のマニュアルが整備されている。   |                       |
|   | <input type="checkbox"/> 入所時の健康管理に努めている。  | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 感染症やアレルギー等の観察と配慮に努めている。  |                       |
|   | <input type="checkbox"/> 多様な職種が連携・協同し、一時保護後の養育環境(家庭復帰・里親、児童福祉施設等)の確保に向けてアセスメントに基づく支援を行っている。 | <input type="radio"/> |

【判断した理由・特記事項等】

施設長や専門職等が窓口となり、一時保護を受け入れている。受け入れ時は、初期情報を丁寧に聴き取るとともに、身体的状況や心理的状況等の情報の入手を、児童相談所に積極的に働きかけている。看護師も子どもに寄り添い、感染症やアレルギー等の身体状況の観察を密に行っている。また子どもの心理的不安を取り除くため、一人の職員が継続して関わり、子どもに安心感を持ってもらえるようにしている。受け入れ後は、アセスメントに基づき、よりよい養育が行えるよう、すべての職員が連携して養育にあたっている。

|   |   |                       |
|---|---|-----------------------|
| ② | A23 緊急一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。                     | b                     |
|   | <input type="checkbox"/> 児童相談所から緊急一時保護を受け入れている。             | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 緊急一時保護を受ける際の手順が整備されている。            |                       |
|   | <input type="checkbox"/> 観察室での「観察期間」の実施を順守して対応を行っている。       |                       |
|   | <input type="checkbox"/> 入所時に、必要に応じて医療機関との連携をはかる等の対応を行っている。 | <input type="radio"/> |
|   | <input type="checkbox"/> 感染症や潜伏期間等への対応が十分にできている。            |                       |
|   | <input type="checkbox"/> 受け入れ後の多職種による連携したアセスメントが実施されている。    | <input type="radio"/> |

【判断した理由・特記事項等】

緊急一時保護を受け入れている。子どもの不安を取り除くため、対応した職員が子どもが落ち着くまで継続して関わっている。食事、入浴等も同じ職員が関わり、安心感を持ってもらえるようにしている。緊急一時保護の場合、その子どもの情報が不足することが多いため、他の子どもの安全にも配慮しながら関わっている。看護師は感染症やアレルギーなどの観察に努めている。